

P & A いしかり 活動広報

第23号

2018年4月20日

どんな障がいがあっても、安心して地域で暮らしていけるようにしたい！
障がいのある人への良き理解者を増やし、広げたい！

P & A いしかり事務局 <http://p-a-ishikari.jimdo.com/>
石狩市障がい者支援センター(石狩市樽川519-2)
TEL 0133-73-8868 FAX 0133-73-8869
発行責任者 佐々木公子



「子どもの居場所づくりを 共に考える集い」開催!!

さとにきたらええやん

自主上映 in いしかり開催!!

主催 P & A いしかり
共催 石狩市(子ども政策課、障がい福祉課)
後援 石狩市教育委員会、石狩市社会福祉協議会



去る平成30年3月17日(土)、石狩市総合保健福祉センターりんくる視聴覚室にて、「子ども居場所づくりを共に考える集い」が石狩市(子ども政策課、障がい福祉課)の共催、石狩市教育委員会、石狩社会福祉協議会の後援を受け開催されました。今回は卒業式やいろいろなイベントが重なり、19名の方が参加されました。昨年の映画「さとにきたらええやん」自主上映会に続く、第2弾として企画し、映画では見られない「こどもの里」や同じ大阪西成で子どもの家事業をおこなっていた「山王こどもセンター」を利用している子どもたちの様子やご本人たちの生の声を紹介しました。

第2部では、東京都豊島子どもwakuwakuネットワーク(代表栗林さん)の活動紹介にはじまり、石狩市内で居場所づくりに取り組まれている「レタッタ」さん、子ども食堂「まるくるこどもカフェ」さんのスライド紹介。さらに、市内の子どもだけでなく大人も含めた居場所づくりなど、4世代交流コミュニティハウス「イシカリさんぼみち」や(福)石狩市社会福祉協議会が作成した、通いの場まっぴ「通いの場を探しませんか?」の紹介もしました。その後、3つのグループに分かれ「居場所」について共に考えました。各グループでの内容は次ページに紹介します。また、当日の詳しい内容や資料はP & A いしかりのホームページにも紹介されていますので、是非ご覧ください。



第1部 映画では見られなかった インタビュー紹介 ～「こどもの里」や「山王こどもセンター」～

サラさん（こどもの里）

小学校6年生の9月から11月までこどもの里に住んでいて、それから5年が経ちました。家族が母だけで精神的に弱い人で、母が沈んだ時には私はほったらかしで、独りになっちゃうんです。そういう時に、学校の帰りとか「こどもの里」に来て、みんなと過ごして言葉では「寂しい」と言わないんですけど、みんなが気づいてくれて、「何かあった」と聞いてくれて、母よりも私のことをわかってくれて、家よりもあったかくて守られているような気がするんですよ。

私は泣けない人なんですけど、人前で涙を流せないんで、今までそれが悩みだったんですけど、グーとなった時にここだったら泣けるんです。スタッフの人が話を聞いてくれるし、信用も信頼もしているし、全部受け止めてくれる。自分の人生の中で一番大きな居場所というぐらい、ここが大切な存在で、私にとって居場所ですね。



かれんさん（山王こどもセンター）

車いすの生活のかれんさん。山王こどもセンターでは、かれんさんが来るとみんなさりげなく、手助けを自然にしています。かれんさんは学校では「こっち向くなや」と言われたり、水をかけられたり、消しゴム投げられたりして、学校行くのが「めっちゃイヤで」毎日「うっとおしい」とかずっと言って、家でもあまりしゃべられへんかった。しかし、センターに帰ってきてマミさん（センター長の飯島真美さん）に話を聞いてもらったり、みんなで遊べるというのがあったから「今日も頑張ろう」と思って、今まで頑張れたなっていうのはすごいいっぱいありますと話していた。



れおんくん（山王こどもセンター）

センターでは学校や家庭に居場所を見つけられない子がいます。れおんくんもその一人です。学校になじめず、不登校になり、1日のほとんどをセンターで過ごしています。周りの空気が読めない子だったので、みんな静かにしているのに、俺だけワーワー言ってしゃべって怒られる。怒られて不機嫌になって物にバーンと当たる子やった。レオン君は小さいときに両親と離れ、おばあさんに育てられました。

れおんくんが山王子どもセンターに来て過ごすようになり、大勢の中でどう触れ合っているのかわからないで悩んできた。多くの子どもたちと遊び、ふれあう中で、人との付き合い方を学んだという。「俺もお兄ちゃんだから、小学生とかに優しくしていかないと。みんなと遊んで交流を深めていって、常識を学んで成長する方が断然いい」と思った。

そんなれおんくんが苦手だった学校と向き合おうとして、週一回ボランティアの講師が勉強を教えてくれるプログラムに毎回出席し、地元の工業高校への進学を目指した。

そして高校2年生になったときのインタビューでは、あらめて自分を振り返り、「中2から来ているんですけど、自分はその時一番やっかいな子というか、一番問題児だったんですけど、センターに来てから、自分を変えることができ、センターは自分自身を変えられる場所。それから頼れる存在に成長していったのも、このセンターのおかげです。

「センターの魅力は？」と質問されて「魅力はいっぱいあるんですけど、幅広い子たちがいっぱいいる中で、いろんな特徴のある子がいっぱいいて、それでも受け入れるセンター。世間一般の人から見て、障がい持っている子をいい目で見ているとは思わない。一般の人が

通り過ぎると「えっ、何な。気持ち悪」というの出てしまうんですよ。センターはそんなのを絶対思わなくしてくれる。センターに来ると人生が変わる。センター人生変えますよ。ひっくり返りますよ」と笑顔で答えていました。



第2部「居場所」づくりの紹介

地域が変われば、子どもが変わる 豊島子どもWAKUWAKUネットワーク

大坂西成の「こどもの里」の莊子さんのようにはなれないけれども、その中で私たちでも何かできることはあるんじゃないか。できないことを数えるよりも、その中でできることを探して取り組んでいこうよ。そんな仲間が、豊島子どもWAKUWAKUネットワークをつくりました。

豊島子どもWAKUWAKUネットワーク
理事長 栗林知絵子さん



石狩市内での居場所づくりのとりくみ紹介

こどもの居場所づくり レタッタ



「レタッタ」はアイヌ語で、白樺樹皮の意です。白樺はマザーツリーとも呼ばれ、火災が起きて焼け野原になっても一番最初に芽を出すと言われるほど生命力に溢れる樹木です。その強さ、しなやかさのイメージを持ち、活動拠点が、花川北白樺町内会地区であることから名付けました。

子どもの力は大人が思っている以上にとても柔軟性が有ると活動していて常に感じさせられます。レタッタ開催中は年上の子が下の子を先導したり、同じ年の子同士もお互い協力し助け合い、一つ屋根の下に集まった他人同士がまるで、家族、親戚のように過ごす様子を見ていて、とても感じさせられます。

レタッタは、「子どもの居場所作り」や「子ども食堂」という名称から連想するような、貧困家庭、ひとり親世帯のみを対象とした場所ではありません。地域の子どもたちを地域の大人たちみんなで協力して見守ろうという思いから始めた活動です。ですので、共働きをされているご家庭、そうでないご家庭、また、子育てを終えられた世代の方々にも気軽に遊びにお越し頂けたらと思います。

(レタッタ 菅原麻弥さんより)

まるくるこどもCafe

相談室セジュール・まるしえは、主に、不登校やひきこもりなどに悩むこども・若者、その家族のサポートを行います。“セジュール”は「居場所」という意味です。

NPO法人ジェルメ・まるしえは、こども・若者を応援する団体です。“ジェルメ”は『(感情などが)芽吹く』『“まるしえ”は『人があつまる』という意味があります。Cafe まるくるは、H28年秋にオープンした法人が運営する小さなカフェです。若者たちにとって、就労のための練習ができる場所でもあります。月一回、火曜日に子ども食堂「まるくるこどもCafe」を実施しています。

「まるくるこどもCafe」のはじめるまでの思いとして、スタッフだけでなく、活動に協力して下さっているボランティアさんからも「やりたい!」という声があり、一方では「こどもたちに来てもらえるのだろうか?…」という不安の中で、「せっかくCafeの場があるやってみよう!」とH29年4月にオープンしました。月1回、第4火曜日。17~19時まで10名定員で、予約制です。定員は目安で、可能な限り受け入れています。ボランティアさんに手伝っていただき、家庭的なあたたかいお料理を提供しています。

JAいしかり「とれのさと」様や藤女子大学様、ハンズハーベスト北海道様から、お米やお野菜を寄贈していただいています! ご近所にお住まいの方、興味のある方は、お気軽に、いつでもいらしてください*^-*)

まだまだ手探りではありますが、子どもに限らず、いろんな世代の方に交流していただける場所になることを目指しています。
(NPO法人ジェルメ・まるしえ 道端一沙さん)



第2部 「居場所」について考えてみる



①「居場所」と聞いて、どんなことをイメージしますか？

- ほっとできる場所。
- 自分らしく過ごせるところ。
- 気軽に話せる場所。
- 色々な話を聴ける場所。
- ほっとできて、安らげる場所。
- 子どもの居場所のイメージ
- 暗いイメージがあった。虐待とか、学校でのいじめとか逃げ場のない子供達に通える場所がこのような形であったことは一つの発見です。

②最近色々な「居場所」が、なぜ必要になってきていると思いますか？

- 自分と同じようにほっとできる場所を求める人が他にもいると思うから。
- みじかなところに、気軽に立ち寄れるところがあると地域の交流の場にもなる。
- 心のゆとりが少なく、はなしたり、来たりする時間が無くなっている。それぞれの家庭生活が忙しすぎて、親子共に安心できる家が、少しずつ減っているような気がします。
- 福島でのことがあり、避難して親しい人との別れ、家族を離れなければなくなり、孤立してしまう人が増えた中で、こころの癒される場所を求めた人が多くいたことで「居場所」ができたことにより話題になることが多くなってきたように思う。

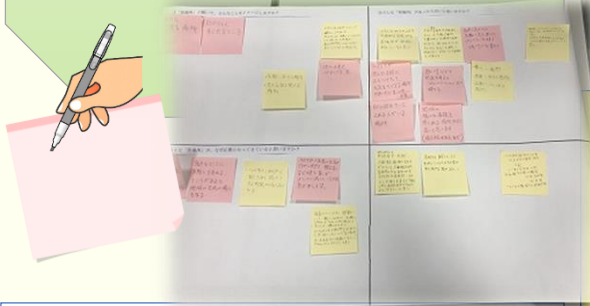
- 現在石狩では、町内会や社協、高齢者支援課の方たちがやっている高齢者向けの居場所と今日紹介された子供向けの居場所
- 主に大人対象のお店などがあると思って居場所紹介が今日のようにされるといいと思う。
- 居場所を運営している人、利用している人たちの生の声が聞ける場が欲しい。
- 地域内の情報もたくさん出ました。地域内で気軽に通える居場所が次々できたら良いと思う。

グループのAさんから、居場所に参加した時の様子をいろいろと聞く事ができました。ふらっとは市の健康講座、体力作り講座などで集まった人達がふらっと立ち寄れる場所があれば良いねが 始まりのようです。大人が今は多いようですが誰でも子どもでもふらっと来れる場所になっているようです。グループのメンバーの中で子ども世代と直接関わりは無いけれど小学生の孫から両親が働いていて孤食の友達、食事をコンビニで買ったもので済ませる友達がいるという話を聞いたことがあると話をしていました。

子ども食堂のきっかけは何か出来る事はないかと思いを抱いていた人達に市から声が掛かったことが始まりのようです。現在は花川北の方に多いようですが南側にも出来れば良いという話しになりました。支援センターえみなの増築部分の話、ライフの話なども出ていました。

③どんな「居場所が」あったら良いと思いますか？

- ほっとできる場所。
- 自分らしく過ごせるところ。
- 気軽に話せる場所。
- 色々な話を聴ける場所。
- ほっとできて、安らげる場所。
- 子どもの居場所のイメージ
- 暗いイメージがあった。虐待とか、学校でのいじめとか逃げ場のない子供達に通える場所がこのような形であったことは一つの発見です。

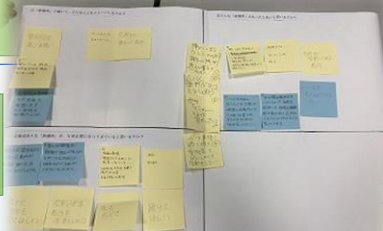


①「居場所」と聞いて、どんなことをイメージしますか？

- 安心して過ごす場所
- 安心できる場所。自分を出せる場所。育ちあいの場所。
- 居場所といえば、まず家庭を連想します。次に学校や職場でしょうか。
- ほっとするところ。息抜きができる。
- 気持ちの落ちつく場所。

③どんな「居場所が」あったら良いと思いますか？

- 年齢、性別問わない。
- 相談できる、話し合える場。趣味。
- 自分必要とされる場。
- いつでも自由に入出りできる家が理想の居場所です。空き家対策にもなるので、強制はそれを作ってほしい。
- いつでも受け入れてくれる所。



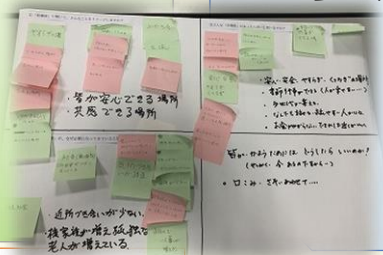
②最近色々な「居場所」が、なぜ必要になってきていると思いますか？

- 昔は放課後も校庭で遊んでいられたが、今は防犯上の理由などでそれができなくなったから。
- 家庭の崩壊。地域での支え合いが希薄になっている。
- 人間関係を学び合う場所が必要。
- 孤立・自己責任。
 - 誰かに自分を見てほしい。
 - やすらげる場所を必要としている。
 - 生きにくさ。
 - 助けてほしい。

- 障がいのあるなしに関わらず、落ち着く場所は？息子に聞いてみたい。
- たぶん「全部だヨー」と言うと思う。
- 母は「そうかーそれは良かった」
- 母は身体の続く限り、育成会とP&Aいしかりの活動をして……

①「居場所」と聞いて、どんなことをイメージしますか？

- やすらぎの場。いやされる場所。
- 自分がのんびりできる。
- ホットする場所。やさしい場所。
- おちつく場所。
- 一人で行っても安心できる場所。
- 自由に行ける。行きやすい。(気づかいせずに……)
- 歩いて行ける近くにある場所。
- わかち合い。交流。
- 気軽に行ける場所。
- 共感できる場所。皆が安心できる場所



③どんな「居場所が」あったら良いと思いますか？

- みんながお互いに助け合いながら参加できる場所。
- アットホームなかんじ。
- 安心・安全・やすらぎ・くつろぎの場所。
- 心からゆったりできるような居心地の良い場所。
- 多世代の人が集える場所。
 - 悩みや不安も何でも話せる・話しやすい人がいる場所。
 - 季節の行事ができる場。(人が来やすい……)
 - お金がかからない。できれば近くがいい。

②最近色々な「居場所」が、なぜ必要になってきていると思いますか？

- 格差社会。
- 社会(家庭含む)での絆が少なくなっている。
- 昔に比べ近所の関係も希薄になっている。
- 近所付き合いが疎遠。
- 共働きが多く、近所づきあいが少ない。
- 家族が少ない。
- 核家族化にともない、他の人とのコミュニケーションが不足してきたため。
- 高齢化で、一人暮らしが増えた。

- 皆が通うためには、どうしたらいいのか？(せっかく、今あるのですから……)
□コミ、誘いあわせて……



第1部 動画の関連情報ソース

大阪市西成区釜ヶ崎にある「こどもの里」に密着！

映画『さとにきたらええやん』予告編

<https://www.youtube.com/watch?v=i0IRfCvvGHk&t=3s>

大阪市「こどもの家」を守れ！～橋下行革プランで危機

<https://www.youtube.com/watch?v=OrUq2ziniwg>

Sanno Kodomo Center(山王こどもセンター)

<https://www.youtube.com/watch?v=UuDUkhFid5I>

山王こどもセンター (Sanno Kodomo Center)

https://www.youtube.com/watch?v=cEnyUd_xAM0&t=24s

こども食堂サミット～第1部

「地域とともに、こどもに寄り添う 35年の実践から」
荘保共子さん(こどもの里)

<https://www.youtube.com/watch?v=FfUKFoiXGTw>

子供の未来応援動画～支援活動紹介編～

https://www.youtube.com/watch?v=ZNRrhN_Te4&t=302s

【Official Music Video】SHINGO★西成/ここから…いまから
2017 昭和レコード

<https://www.youtube.com/watch?v=ebkaDKziHk4>

SHINGO★西成(しんごにしなり)

大阪府大阪市西成区出身のラッパー。昭和の香りが色濃く残る“ドヤ街”、西成の釜ヶ崎・三角公園近くの長屋で生まれ育つ。

「こどもの里」にも小さいころ通ったことがある。90年代半ばよりライブ活動を開始。2005年よりCDリリース、地元での平坦ではない生活をリアルな言葉でつづり、精力的にライブ活動を行っている。節目となるワンマンライブでは、通天閣下のSTUDIO210(現在は閉館)や、笑いの殿堂としておなじみのなんばグランド花月など、地元の色濃い場所にて開催。

三角公園の炊き出しや西成WAN、堀江ゴミ拾いなど「自分のまちは自分でつくる」を体現しつつ、現在のニューアルバムができました。

今回の動画でも流れた「ここから…いまから」がその1曲である。



第2部 関連情報ソース

通いの場まっぴ
通いの場を探しませんか？
会食やカラオケ、ダンス・雑談・パルク・用フ・麻雀・おしゃべり・・・
石狩にはまだまだ通いの場が足りません！

社会福祉法人 石狩市社会福祉協議会 TEL 261-1000

詳しくは石狩市社会福祉協議会のホームページ
<http://ishikari-shakyo.org/welfare/>

コミュニティーハウス
イシカリ
カラダにやさしいお食事とお飲み物

おんぼみど

営業時間
火曜日～土曜日 10:00～17:00
(ラストオーダー) 14:30
定休日: 日・月曜日

〒061-3258
北海道石狩市梅川8条2丁目160
TEL&FAX:0133-74-7739

講座のお知らせ

2018年度前期さっぽろ自由学校「遊」単発講座企画

地域をつくる

篠路まちづくりテラス「和氣藍々」の実践を通して考える

NPO法人ワーカーズコープの組合員が中止になり住民の協力を得て昨年5月にオープンした交流施設です。カフェや気軽に集まれるスペース、住民のためのイベント(居酒屋形式の集い・3世代交流等)を随時実施しています。今回は責任者の石本さんにテラスのいき札、活動の様子、地域の方たちの思いを伺います。

日時: 5月19日(土) 14:00～16:00

会場: 愛生館サロン(愛生館ビル6F:南側奥)

札幌市中央区南1条西5丁目愛生館ビル

ゲスト: 石本依子さん

NPO法人ワーカーズコープ篠路まちづくりテラス「和氣藍々」

受講料 当日1,000円 事前予約800円 ユース500円

主催・連絡先 さっぽろ自由学校「遊」

札幌市中央区南1条西5丁目愛生館ビル5F

TEL 011-252-6752

FAX 011-252-6751

Email: syu@sapporoyu.org